FGC NEWS No.2

March 2013

FGC ～Foundation for Global Children～

一般財団法人 世界こども財団

- 東日本大震災支援活動
  「医療支援班　～放射線の影響に対する誤認識～」
- ブータンへの緊急支援にご協力ありがとうございました
- 寄付モノご報告

目　　次

世界こども財団・・・・・・・・・・・・・・2
東日本大震災支援活動・・・・・・・・・・5
ブータン・・・・・・・・・・・・・・・・9
ミャンマー、カンボジア、バングラデシュ・・11
日本での活動・・・・・・・・・・・・・・12
みなさまとできること・・・・・・・・・・13
事務局より・・・・・・・・・・・・・・・14

一般財団法人 世界こども財団

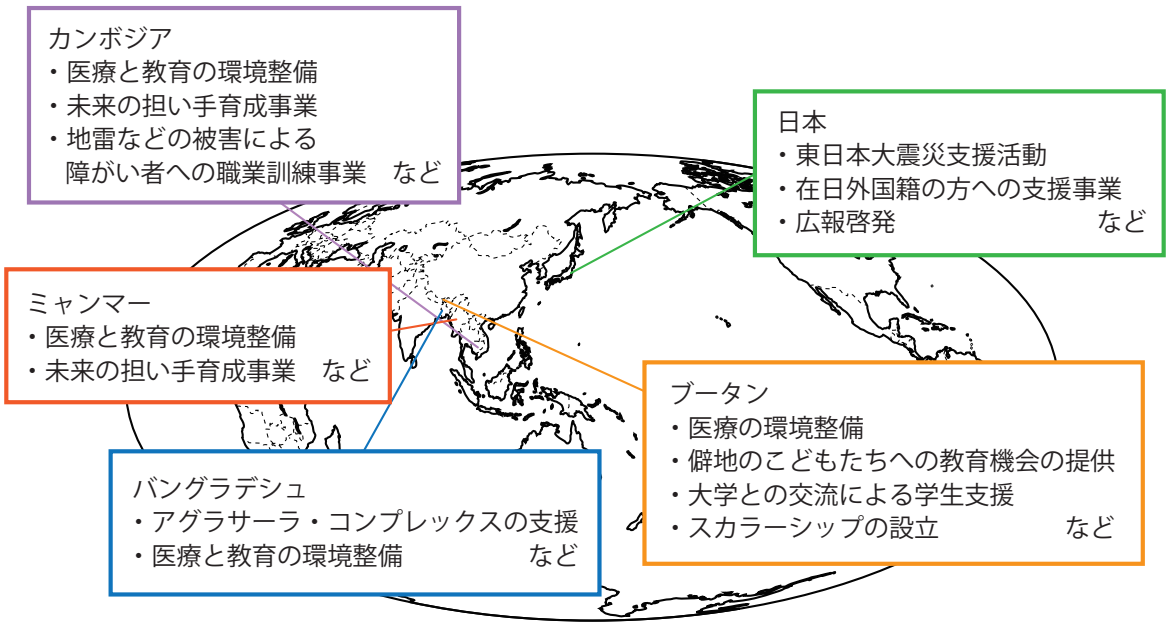
理事長	土屋 了介	財団法人　がん研究会　理事
専務理事	宮澤 保夫	星槎グループ　会長
常務理事	井上 一	学校法人国際学園　理事長
理事	上田 眞理	NPO 法人健康医療開発機構　常任幹事
理事	佐々木 卓	学校法人国際学園　理事
理事	壇 則行	星槎グループ　本部　副本部長
理事	角木 孝生	社会福祉法人星槎　理事長
監事	久保 光雄	みらいコンサルティング株式会社　代表取締役
監事	堤 淳一	丸の内中央法律事務所　共同代表
評議員	色平 哲郎	佐久総合病院　地域医療部　地域ケア科医長
評議員	加藤 登紀子	歌手
評議員	木内 孝	株式会社イースクエア　代表取締役会長
評議員	清水 竜一	日総工産株式会社　代表取締役社長
評議員	鈴木 雅映子	株式会社 *SUI Associates*　代表取締役
評議員	高橋 謙	ベーカー＆マッケンジー法律事務所
評議員	宮澤 幸子	学校法人国際学園　理事

こどもが心身ともに健やかに育つように

こどもは生まれながらに個性があります。
個性は一人ひとり違います。
健やかに育つように差し伸べる「手」はこどもによって変える必要があります。
人は一人ではなく、ともに生きる必要があります。
差し伸べる「手」も、おとなからこどもへ、だけではなく
こどもからこどもへ、こどもからおとなへもあります。
こどもを支えることは、こどもに大人が教えられることでもあります。
「手」は、教育や医療などあらゆる分野で必要としています。
「手」の差し出し方もいろいろあります。
こどものそばにいる、話を聞く、力で支える、声をかける、資金を出す…
大事なことは、こどもから目を離さないことです。
そして行動することでしょう。
こどもには未来があります。
未来はこどもが支えます。
「世界のこどもたちに、将来の夢と希望を」
志をもったみんなで支えましょう。
未来を作るこどもたちのために、
今、あなたが出来ることから一緒に始めませんか？

理事長　土屋了介

FGC 活動場所



上記以外にも世界各国において医療と教育の環境整備、職業訓練、科学教育の一環としてアマチュア無線を通じた活動を行っています。

活動国・地域

フォークランド、ラオス、イエメン、エチオピア、エリトリア、韓国、サイパン　…他

教育を超えた幅広い問題に取り組み、世界中のこどもの自立を実現したい。

将来を担う人材を育むこと。それはやがて日本と友好関係を結ぶ礎になる。

1972 年の星槎グループ創設以来、「こどもたちは未来の財産。
あらゆるこどもたちがしっかりと育たなければ未来はない」
という想いを掲げ、教育を中心に、国あるいは行政が
なかなか取り組めていない事業を国に代わって行ってきた
という自負があります。この 40 年を振り返れば、紆余曲折はありましたが、
少しずつ社会的にもその存在価値を認められつつあると実感しています。

しかしながら、すべてのこどもたちが“真の意味で”
社会的に自立するためには、教育だけを語っていては限界があります。
国内においては、例えば医療との関わり、すなわち様々な困難を持つ
こどもたちの特性を無視した教育の在り方を看過できません。

世界に目を転じれば、医療支援が行き届かないために、こどもたちが
満足に生活や成長ができない国々がまだまだたくさんあります。
こどもたちの真の自立のためには、このような数多くの問題に取り組むための
一体化した組織が必要不可欠であるという思いを日々強くしていました。

これが私たちが財団を設立しようと決めた最大の理由です。

また、世界の国々、特に発展途上国と言われる国のこどもたちに対して、
積極的に関わらせていただきたいと思っています。そして、国際社会において
日本の存在感を発揮し、責任を全うしようとするこのような活動を
政治主導ではなく“民間としてできる小さなことから”始めることに意義がある
と考え、その問題提起をしたいという意味合いも含まれています。

設立者　宮澤 保夫

東日本大震災支援活動報告

2011年　3月11日　東日本大震災発生

命を繋ぐ支援物資 → 風評被害に向けて → 教育・医療の再生

世界こども財団では、東日本大震災に伴い、緊急支援活動として行動をしています。

教育環境支援班：
宮澤保夫理事を筆頭に心のケアでも実績のある星槎グループの教職員を筆頭に構成
医療支援班：
東京大学医科学研究所先端医療コミュニケーション社会連携研究部門 上昌広特任教授を中心に東京大学の教授や学生のほか、医師や看護師と連携して構成

教育環境支援班：
カウンセリング／生徒児童、教員、幼稚園教諭、保護者（福島県）　対象
特別支援教育研修会／小学校等（福島県）にて実施
随時授業サポート／磯部小学校、磯部中学校（福島県）　ほか
医療支援班：
放射線説明会／一般市民、教職員、医療関係者　対象
両班合同実施：
健康診断・健康相談／総人数 1,500 名以上

医療支援班メンバー

ある日の早朝、通勤途中に宮澤保夫理事から「こどもの心のケアをしなければ！」と電話が入った。すぐ自宅に引き返し、当面の荷物を持ち、そのまま福島に向かった。そして、こどもたちへの支援が始まった。

文科省の調査では沿岸部のこども達の心のケアのニーズは高い。特に福島県の沿岸部は地震・津波・原発事故の三重苦。津波により街が崩壊し、現在も仮設住宅での生活を強いられているこどもたちの心理的負担は大きい。しかしながら、こどもたちはその生活にも順応してきている。

その中でも同じ沿岸部で隣り合う相馬市と南相馬市ではこどもたちの状況は異なるのも現状である。南相馬市では避難区域が解除され、一時帰宅はできるものの、ライフラインの整備もされずに、自宅に帰ることも、自分の学校に通うこともできない。この地域のこどもたちは、仮設住宅と仮設校舎での生活と今後の見通しが立たない不安を抱えているためストレスは計り知れない。

私たちはこどもたちへカウンセリングや学習支援を中心とした支援と、先生や保護者などへの教育相談・カウンセリングを通じてこどもを支える大人のケアを行いながら、こどもたちの教育環境を整えてきた。その甲斐あってか、当初心配されたこどもの PTSD も現在は表面化していない。

今後の課題として震災から 3 年後にこどもたちがどのような生活状態にあるかである。仮設住宅での生活も 3 年が目安であり、各家庭が自立した生活を強いられる。経済的に恵まれていれば他に移ることも可能だが、そうでなければ取り残されていくことになる。生活環境が大きく変わりそうである。兵庫県の調査では阪神大震災の 3 年後に要配慮児童生徒の数がピークとなっている。

様々な支援が恒久的に続くことは考えにくい。であれば残りの 1 年 6 ヶ月で地域の人々が自力で乗り越えていけるような環境作りとそのための支援が今後は必要とされている。

教育支援班　　安部雅昭（星槎大学　特任講師）

放射線の影響に対する誤認識

医療支援班　　坪倉正治（南相馬市立総合病院　医師）

放射線説明会では対話式でわかりやすく伝えます

震災後、福島県相双地区での活動を開始してから、そろそろ２年になります。継続的にお手伝いしている内部被ばく検査は、今では福島県内の各地域でも行われるようになりました。南相馬市立総合病院では、2011 年 7 月から 2012 年末までに 2 万人以上の検査が終了、相馬市でも 2012 年 6 月から約 1 万人の検査が終了しました。福島県全体では 23 万人の検査が終了しています。

これらの検査結果は、我々に福島県内での被ばくの現状を知るための多くの手がかりを与えてくれます。最も重要なことは**「日常生活での慢性内部被ばく量がほとんどない」**ことです。2012 年 4 月以降、小児の 99.9% からセシウムは検出されない状況を維持し、成人の検出率も徐々に低下しています。

現在の南相馬を始めとする福島県内での日常生活は、大きな内部被ばくをもたらすものではない、言い換えれば、**スーパーに流通している食品や検査済みの地元の食材、水道水を使用する生活で、内部汚染をしてしまう状況ではない**ことを示します。この状況はチェルノブイリとは全く異なり、福島県の農家の方々、多くの父母たちの努力の賜物です。

その一方で、**未だ、流通していない出荷制限のかかった食材を未検査で継続的に摂取し、高度の内部汚染を指摘される**住民が散見されます。今後の継続的な検査体制の強化はもちろんですが、地元で啓蒙活動を続けて行く必要があります。そのため、私たちは**放射線説明会**や**健康診断**など継続的に実施をしています。医療支援班は、医療だけではなく、**放射線教育**にも力を入れています。2012 年末から相馬市の全ての中学校、その他に福島高校や、南相馬市の小中学校で放射線に関する授業を行いました。大人以上に、こどもたちは周囲から入る曖昧な情報により、不安な毎日を過ごしています。そこで、私たちは現状の把握、放射線とはそもそも何か？どうやれば放射線とうまく向き合うことができるか、講義をしています。一度では全てが伝わりませんし、まだまだ今後も継続的に行って行く必要があります。そこで、**教育支援班と連携**し、**こどもたちの様子、理解度合、どのような情報が必要か**を毎日相談しながら、試行錯誤を続けています。

相馬中央病院には、私の他に星槎大学の客員研究員である越智小枝先生も赴任されており、診療を続けていらっしゃいます。先生はロンドンと日本を行ったり来たりしながら、海外との架け橋にもなってくれている力強い仲間です。本財団の活動にはたくさんの協力者がおり、皆さまのおかげで活動を続ける事ができています。これからも、多くの方と連携しながら福島のこどもたちの未来のために活動を継続してまいります。

今後の被災地支援を考える

教育支援班　　安部雅昭（星槎大学特任講師）

1．地域による違い

東日本大震災後の支援を開始して２年が経とうとしています。2012 年４月からは相馬市に加えて南相馬市教育機関への支援も行っています。相馬市と南相馬市は隣り合う市ではあっても、**原発事故の影響により復興のスピードが異なります。**南相馬市は市町村合併以前の行政区により３つの地域からなります。その中の鹿島地区や原町地区は復旧しましたが、小高地区は未だ復旧のめどが立たず警戒区域となっています。こどもたちは「いつになったら小高に戻れるのだろう。早く戻りたい！」との強い思いがあります。その小高地区の中でも状況が違うのです。

a. 真野小学区・・・**津波により街が全壊**　　b. 福浦小学区・・・**津波が到達し、現在も湿地**
c. 小高小学区・・・**家は残っているが損壊**　　d. 金房小学区・・・**家は残っているが高い放射線量**

状況の異なった４つの学区から鹿島地区の鹿島小学校と鹿島中学校に集まり、仮設校舎で複数校が学んでいます。教室は１部屋を**パーテーションで区切り、２学年が使用しています。**特別教室がないため、その教室で音楽や音読などの授業も全て行っており、良い教育環境とは言えません。しかし、こどもたちは、現状を受け入れ、仮設住宅の生活や家族構成の変化からくる精神的ストレスなどを学校に来て友達と過ごすことにより解消しています。ただ、生徒同士の生活環境が異なり、本音を語れず、なかなか打ち解け合えない面もあります。こうした中、まとまりのある学校づくりのため、**自らも被災した教職員が一丸となって努力をしています。**

2．教育支援活動状況

現在の所、当初心配されていた PTSD の疑われる児童・生徒はいません。また、運動不足による肥満傾向も見られません。一見、心配なく見えそうですが、こどもたちは、定期的に外部被ばく検査、内部被ばく検査、甲状腺検査、健康検査など４種類の検査を受け、**時間的、精神的負担が継続**しています。**その対策として、医療支援班　坪倉医師の「放射線を正しく理解するための学習」を行っています。**ご依頼者の個人情報に留意しながら、学校の先生方と情報を共有し、問題解決にむけて取り組んでいくことが重要であると考えます。この機会にこどものニーズに応じた教育を先進的に取り組んでいくことができる大きな可能性も感じています。

3．今後の課題

現在は震災直後のニーズと異なり、こどもに関する課題としては、発達に関するもの・不登校・家庭環境（片親又は親戚・祖父母等で養育）、学校の先生方に関しては、重複校務分掌を行う負担感や日常的な疲労感があります。そして、就職をしなくても生活が可能である現状もあります。そのため、求人はあるが、就職希望者はいない。これは、今後のこどものキャリア教育に影響することが考えられます。仮設住宅から転居する家庭も増え、出て行くこどもたちの新たな環境への不安や、残されるこどもたちの孤独感も考えられます。しかし、こどもたちが現実を受け入れるため、あらゆる可能性を拡げ、生活できる環境作りをこれからも応援します。

活動集計【2012 年４月～ 2013 年１月】

学　　校	カウンセリング			コンサルテーション	行動観察	情報交換
	児童・生徒	教　員	保護者			
相馬市内中学校	50	9	10	89	125	75
南相馬市内中学校	51	5	6	26	56	41
相馬市内小学校	82	31	5	31	154	93
南相馬市内小学校	51	37	12	102	135	91
	234	87	33	248	470	209

福島のこどもたちの笑顔のために…

【北の大地 -- 北海道体験ツアー】

2012 年 12 月 22 日～ 12 月 28 日（帯広，芦別）
＜参加者＞　児童生徒 40 名　保護者 4 名
＜協　力＞　（学）国際学園
2011 年 3 月 11 日の大震災から、まもなく 2 年を迎えようとしています。原発被害のあった福島県の現地では遅々として進まない復興の現実があります。こどもたちは、今も仮設の学校や住宅で毎日の生活をしており、思う存分遊べない現状は続いています。夏に続き、今度は冬の北海道を体験。「そり滑りとスノーラフティング」「スキー体験」「クリスマスパーティ」等、思い出がまた一つ増えました。

参加した子どもたちの声　～皆、笑顔であふれていました～
○Ｉ君 小学校 5 年「これだけの雪を見たことはないので楽しい」
○Ｍ君 小学校 3 年「相馬はあまり雪が降らないので、雪遊びが出来てうれしい」
○Ｋ君 小学校 5 年「北海道に来るのは初めて。放射能のことなどを気にせず思いっきり遊べるので楽しい」

【サッカーを通じた交流支援活動】

福島県相馬市立向陽中学校サッカー部との交流
2012 年 11 月 22 日～ 24 日
＜開催地＞星槎湘南大磯キャンパス
＜参加者＞向陽中学校サッカー部 16 名　保護者 3 名　ＮＰＯドリームサッカー相馬 2 名
平塚市立金旭中学校・神明中学校・ベルマーレ小田原
奥寺スポーツアカデミー（ＯＳＡ）レイア＜女子チーム＞
＜内　容＞交流試合、サッカースクール、ユース公式戦観戦

相馬市立向陽中学校サッカー部のみなさん

福島県相馬市光陽サッカー場でのサッカースクール
2013 年 1 月 12 日
＜開催地＞相馬光陽サッカー場
＜指導者＞奥寺康彦氏（ＯＳＡ校長）、玉腰公治氏（神奈川県サッカー協会）
＜参加者＞小学生高学年 137 名
（相馬ＳＣ、相馬ＦＣ、大野ＦＣ、エステレーラ女子、新地ＳＳ、原町第一小学校、南相馬市鹿島地区、原町地区　他）
中学生 94 名
（尚英中学校、中村第一中学校、中村第二中学校、磯部中学校、向陽中学校）
アシスタントボランティアとして、神奈川大学サッカー部 4 名、相馬東高校サッカー部 17 名が参加をしてくれました。皆さん、本当にありがとうございました。

この交流活動は
1　サッカーを通じて、被災地のこどもたちに元気を与える。
2　被災地域への支援を継続的に行う。
という二つの役割があります。イベント型の活動ではなく、地に足がついた活動を継続的に行いたいと考えています。選手、指導者に対して奥寺康彦氏や資格をもった**指導者が指導の狙いを明確かつ計画的に実践している**のも一つの特徴です。また、**神奈川県内のボランティア大学生も参加**し、相馬のこどもたちとの交流の中で**学生たちも多くのことを学ぶ**機会にもなっています。

東日本大震災後、2012 年 8 月から始めたサッカー事業交流事業も（社）神奈川県サッカー協会の協力を得て、今回で 6 回目となりました。1 月のサッカー教室では相馬東高校ＰＴＡ会長から「高校生の中には、**将来サッカーの指導者になりたい生徒もいるので、是非、アシスタントとして参加させたい**」との依頼がありました。高校生たちは、指導者と綿密な打ち合わせを行い、後進の小中学生たちに丁寧に指導していました。
継続的な交流事業を通じて、相双地区のサッカーの人材を育てることに繋がればと願っています。

Bhutan ブータン

ブータンへの緊急支援にご協力ありがとうございました。

寄付金を手渡す宮澤幸子評議員

2012 年 6 月 24 日に焼失したブータンの古寺「ワンデュ・ポダン・ゾン」再建支援の寄付活動は、同年 10 月 15 日をもちまして終了させていただきました。皆様より 239 万 240 円もの温かいご芳志をお寄せいただきました。同寺院内にはこどもたちのための寺子屋があり、寺院再建はブータンのこどもたちへの支援にも繋がります。

焼失したワンデュ・ポダン・ゾンの前で（宮澤幸子評議員）

7月の 1 万米ドル送金に続き、10 月 22 日には、宮澤幸子評議員（横浜・ブータン王国友好協会副会長）が、1 万米ドルの寄付金をブータンの副首相である労働定住大臣にお届けしました。副首相であるイエシ・ジンド労働定住大臣からは、「ブータン政府、国民を代表して、皆様の支援に感謝致します。この寄付金は、寺院再建に大きな助けとなります」と支援に対して感謝の言葉をいただきました。この模様はブータンの国営テレビのニュース番組で繰り返し紹介されたほか、新聞各紙にも取り上げられるなど関心を集めました。

「Royal Society for Protection of Nature」の 25 周年式典

今回のブータン訪問中、宮澤幸子評議員と井上一理事は、本財団とも協力関係にあるブータンの環境保護団体「Royal Society for Protection of Nature」の 25 周年式典に出席しました。同団体は、現国王の庇護のもと運営されている団体で、式典には王妃が代理で出席され本財団のブータン王国への活動についての感謝の御言葉を頂戴いたしました。

加藤登紀子コンサート in ブータン

10 月 20 日には、加藤登紀子評議員が日本人として初めてブータンでコンサートを開きました。野外で行われたコンサートでは、お正月に放送されたドラマ「白虎隊」の主題歌で、バックの和太鼓とコーラスを星槎グループ打鼓音が務めた「風歌 KAZEUTA」の初披露や、ブータンのこどもたちとの共演に、多くの人々がステージを楽しみました。音楽を通じて、ブータンと日本の交流を深めることができました。

アシ・ケサン―宮澤星槎奨学金による留学生支援

ブータン王国アシ・ケサン王女と宮澤会長により設立された「アシ・ケサン－宮澤星槎奨学金」第一期奨学生のキンザン・ゲルチェン（Kinzang Gyeltshen）とペマ・カンドゥ・ワンチュク (Pema Khandhu Wangchuk) は、2012 年 7 月に来日してから約 9 ヶ月間、星槎グループの奥寺スポーツアカデミー（OSA）で学校生活を送っています。

来日時にはほとんど日本語を理解出来なかった 2 人は、日本語の授業や日本人の生徒たちとの交流により日本語が上達し、今では日常生活でのコミュニケーションに問題がなくなりました。OSA では日々サッカーの練習に励み、キンザンはゴールキーパーとして、ペマはミッドフィルダーとして技術が飛躍的に向上しています。また、スポーツ選手として要である基礎体力も増しました。

学校生活以外でも、様々な機会で日本の文化、生活習慣を学んでいます。お正月には、日本人の家庭で一緒に料理を作り、お節料理を味わいました。1 月には学校行事に参加し、初めてのスキーを体験しました。また、2 月のブータン RTC 学生来日時には、彼らに同行して福島の被災地を訪問し、震災復

興の現場を視察する機会もありました。今後は広島や京都を訪問し、更に日本を学ぶ予定です。この活動は「公益財団法人 かめのり財団」より留学生支援のための助成を受け行っております。

「日本とブータンを繋ぐ架け橋となる」という強い使命感を持って来日した彼らは、日本でできるだけ多くのことを吸収し、学ぼうと努力しています。来年度からは、第二期奨学生の 2 名が来日予定です。ブータン留学生として先輩となる彼らが、残り 1 年の日本滞在でより大きく成長し、実りある学校生活を送ってくれることを期待しています。

試合中のペマくん

必死にキーパー練習中のキンザンくん

初めてのスノーボード体験

ブータン王国への第 1 回短期留学プログラム実施

2012 年 2 月には、ロイヤルティンプーカレッジ（以下：RTC）から第 1 回の交換留学プログラムの参加者として 10 人の学生が来日。そして 9 月には、日本の学生が留学生としてブータンを訪れました。このフィールドトリップには、大学生と高校生の 6 人が参加し、大学と高校の教員 3 名が同行しました。日程は 9 月 17 日から 27 日までの 11 日間で、基本的には首都ティンプーの郊外に位置する RTC のゲストハウスに宿泊し、様々な学校（小学校、高校、伝統医療学校、伝統芸術学校、障がいを持つこどもと若者の学校）、教育省、国会、寺院などを訪ねたり、ブータンの方々と交流したり、山歩きなどで自然と親しんだりしてきました。そして、RTC の教職員や学生の皆さんは、一行を熱烈に歓迎してくださいました。歓迎会では、学生さんたちが歌やダンスを披露してくださったのですが、曲はアメリカのポップスで、ダンスもヒップポップが中心でした。ブータンといえば、伝統的な民族音楽でも聞かせてくれるのではないかと思っていたのでちょっと意外でしたが、若者の好みは万国共通なのかと感慨深いものがありました。

朝食は、ゲストハウスの食堂でパン食を用意して頂きましたが、夕食は、RTC の学生さんたちと同じく、カフェテリアでブータン料理を頂きました。唐辛子をふんだんに使ったものが多く、日本人には合う人と合わない人もいましたが、辛いのが大丈夫な参加者はとてもおいしくいただきました。ブータンでは、小学校に入学するとすぐに、英語の授業が始まります。低学年では英語とゾンカ語（ブータン語）は半分くらいですが、だんだん英語の割合が大きくなって、大学では全ての授業が英語で行われます。よって、RTC の学生さんたちはみな英語がとても上手でした。参加者からは、「素晴らしい自然に囲まれた環境、人そして動物。目に入るものすべてが強烈なメッセージとして感じることが出来た気がします」、「盛り沢山な内容に、毎日が本当に早く過ぎると思えるほどの充実感で過ごすことができました」という感想を頂いています。

このフィールドトリップの目的は、参加者にブータンという国を通して、「共生」を学んでもらうということでした。ブータンでは、「国民総幸福量（ＧＮＨ：Gross National Happiness）」という概念で国づくりをしています。ＧＮＨは、1．公正で公平な社会経済の発達、2．文化的、精神的な遺産の保存、促進、3．環境保護、4．しっかりとした統治、の 4 つを柱としています。

第 2 回交換留学プログラムは 2013 年 2 月 10 日～ 24 日、第 2 回フィールドツアー in ブータンは 2013 年 3 月 27 日～ 4 月 4 日に開催されます。その様子は次号でご紹介いたしますので、お楽しみに。

今後も、教育、医療、環境保護など様々な分野でブータン政府や関係機関と連携し、支援活動を行って参ります。

Myanmar ミャンマー

12 月 12 日～ 15 日に宮澤保夫理事がミャンマーを訪問し、保健省大臣と副大臣、その他政府と面談し、今後の支援活動についての意見交換及び現地ニーズ調査を行いました。ミャンマー国内の現状を踏まえ、小学校における健康増進／衛生環境プログラム、遠隔地域医療保健の支援、母子保健の改善プログラムを進めていきます。具体的には、トイレや水場の整備を通じた衛生環境づくり、石鹸を使った手洗い習慣と衛生意識の定着、主要疾病の防止及び他の病気等の発症の調査と比較、遠隔医療用の車両の導入等です。また、ミャンマーは失明率が世界で最も高く、うち約 70%が白内障によるものとされる実情を鑑み、白内障手術に係る医療機器を提供しました。更に、東京大学や大阪大学の専門家のご協力をいただき、専門医の派遣と研修を実施していきます。

引き続きミャンマー保健省や NGO などと連携し、健康な環境づくりや持続可能な開発プログラムを通じ、こどもたちだけでなく、コミュニティー全体に裨益する支援活動を行っていきます。

Cambodia カンボジア

世界こども財団では、医療と教育の環境整備、職業訓練、科学教育の一環としてアマチュア無線を通じ広報活動と募金活動を行っています。2012 年 12 月 5 日から 18 日に行ったカンボジア王国での活動を簡単にご報告いたします。

カンボジア王国には地雷の影響を未だに受けているこどもたち、障がいを抱えて生きていくために職業訓練が必要な人々がたくさんいます。今回の活動の目的は、首都プノンペンにあり、長年、障がい者や孤児達の自立支援のための職業訓練センター (Phnom Penh Thmay Vocational Traning Center) の移転に伴い、設備内容の充実や環境改善に協力することでした。

宮澤専務理事を代表に、日本、ニュージーランド、タイ、ラオス、香港から 8 名のボランティアが 12 月 4 日に各自プノンペンに集合しました。翌朝から灼熱の中庭でアンテナ建設作業が開始され、3 日間で 7 本を建設し運用可能になった周波数帯から順次、無線による世界へ向けての広報・募金活動が開始されました。電波伝播状況が余り良くないなか 1 日に約 1,500 交信を行い、12 月 16 日には 2,815 交信を記録しました。その結果、最終日までに延べ約 21,000 交信になりました。これを相手の人数で見ますと、同じ人が周波数を変えて複数の交信を行うこともあるので、実質約 9,100 人に無線で直接 FGC の活動を広報できたことになります。地域別では日本を含むアジアが約 44%、ヨーロッパが約 43%、続いて北米が約 9%、オセアニアが約 3% で、アフリカと南米はそれぞれ 1% 以下でした。

最後に、今回の活動にあたり職業訓練センターのブンテイ所長とスタッフの皆様、並びに日本カンボジア交流協会の山田理事長ほかの皆様にご理解をいただき、多大なご協力と施設のご提供をいただきましたことに感謝申し上げます。また、今回の募金活動で交信相手のアマチュア無線家の皆様から、2013 年 2 月 14 日現在、$1,700 を超えるご寄付をいただいており、ご支援に感謝いたします。

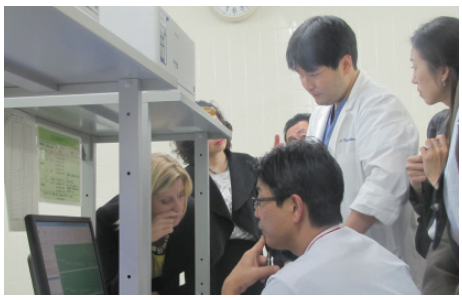
Bangladesh バングラデシュ

アグラサーラ孤児院（無料学校併設）での縫製工場稼働に向けた最終段階に入りました。㈱矢部プロカッティングと現地が合弁会社を新設し、生産を受委託・輸出入契約を結ぶところまで来ています。アグラサーラ孤児院と㈱矢部プロカッティングは星槎グループ・世界こども財団へのご縁を忘れないようにと合弁会社の名前に SEISA を入れ、SEISA Seagull Agrasara Garment という名前を付けられました。

㈱矢部プロカッティングの海外工場展開ニーズとアグラサーラの自立支援を結び付けたプロジェクトは様々な困難に直面しながらも当事者の方々の素晴らしい努力によって実を結びつつあります。引き続きアグラサーラに生活するこどもたちの食事環境の向上と、手に職を付け孤児院を卒業して市中にて自立する方々の応援をして参ります。

全米最優秀教員（NTOY）を日本に招聘し文科省で講演を実施、そして福島訪問

10 月 18 日～ 26 日の 9 日間、2012 年の全米最優秀教員 National Teacher of the Year（以下ＮＴＯＹ）、レベッカ・ミルウォーキー先生を日本へ招聘しました。長年教師不足に悩むアメリカは、ＮＴＯＹプログラムを通じ、素晴らしい教師を国民に紹介することで、有能な教師を少しでも多く生み出そうとしています。レベッカ先生は受賞について、「子どもたちと関わることが好きなだけ。教師というこんな素敵な職業は他にはない。決して自分が No. 1 なわけじゃない。周りの素晴らしい方々がいるから自分が受賞できた」と話されています。日本滞在中には、文部科学省講堂をはじめ、星槎大学教員免許更新講習や星槎中学・高等学校、星槎名古屋中学校で講演を行いました。質疑応答では時間も足りないほど多くの質問や相談が飛び交い、レベッカ先生はそれぞれ丁寧に答えてくださいました。


南相馬市立総合病院で説明を受けるレベッカ先生

今回の招聘の大事な目的の一つは福島訪問でした。今もなお、他国では誤った情報を持たれています。そこで、NTOY という立場からアメリカ全土に発信していただくためにも、本財団の医療支援班坪倉正治医師が発表したデータを事前に送り、放射線の説明を行いました。そして、今もなお仮設校舎で学校生活を送っている南相馬市立小高小中学校を訪問し、こどもたちと触れ合い、また教職員との意見交換会を行いました。噂やメディアから取り入れる情報で子どもたちが不安になっており、鼻血が出ると「白血病になったのでは」と心配し、「福島出身者は被曝しているから結婚できないの？」と質問する生徒もいるそうです。こういったこどもたちの不安は深刻な問題です。レベッカ先生は、ぜひ現状をアメリカのこどもたちにも伝えたい、とおっしゃってくださいました。南相馬市立総合病院では、医療支援班の坪倉正治医師からホールボディーカウンターを用いて放射線についての説明を受け、金澤幸夫院長から震災後の医療についてのお話を伺い、意見交換を行いました。

津波の被害の説明

教職員との懇談会で現場の生の声を聞くことができました

この招聘プロジェクトの目的は、「日本の教育に寄与する」ことです。今回は関東圏、名古屋、福島が中心となりましたが、目的を達成するためには、全国の先生方・こどもたちに発信する機会を設ける事が必要と感じました。次年度はどんな先生がいらっしゃるのでしょうか。今からとっても楽しみです。

小高中学校の皆さんと

みなさまとできること

世界のこどもたちの未来づくりのため、皆さまのあたたかい心を募集しています。
財団へのご参加とご協力をお願い申し上げます。

【賛助会員】
個人会員　年会費　6,000 円 / 一口
法人会員　年会費　120,000 円 / 一口

【ご寄付】
金額を問わず、随時受け付けております。
また、ご寄付先を指定することができます。
①ブータン　②ミャンマー
③バングラデシュ　④財団に一任

【お振込先】
ゆうちょ銀行　振替口座
００２４０－１－１１６６８４
（他金融機関からの場合）
ゆうちょ銀行　〇二九（ｾﾞﾛﾆｷｭｳ）店（０２９）
当座　０１１６６８４
口座名：一般財団法人　世界こども財団

※　賛助会員の場合：払込取扱票の通信欄に「会員の種類（個人 or 法人）」と「口数」をご記入ください
※　ご寄付の場合：通信欄に寄付先をご記入ください

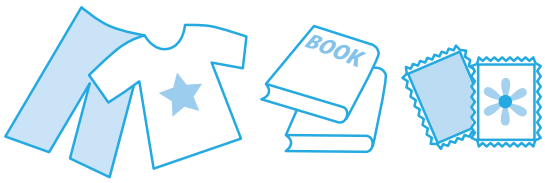
ホームページからもご参加いただけます→ http://www.fgc.or.jp/join/entry.php

「寄付モノ」募集中！

～学校や会社で取り組んでみませんか？～

寄付金だけでなく、身近なモノで財団の活動をご支援いただくための「寄付モノ」を募集しています。家の中で眠っているモノ、掃除をした時に捨ててしまうようなモノも、ご寄付いただくことで社会貢献につながります。

こどもたちも参加しやすい仕組みとなっています。



◆対象となるモノ◆

- 切手・ハガキ（未使用・書き損じ・古ハガキ可）
- 本（文庫、コミック、絵本など）
- 洋服（靴下、下着は対象になりません）
- カード類（テレホンカード、クオカード、図書カード、文具券、ビール券など、未使用のものに限ります）

※詳しくはホームページをご覧ください。　→　http://www.fgc.or.jp
世界こども財団事務局　TEL: **0463-71-6046**　メール：**fgc@fgc.or.jp**

“寄付モノ・寄付コラボ商品”　のご報告（2013 年 1 月末現在）

2012 年 4 月よりスタートしました新たな寄付方法『寄付モノ』。これまでに全国からたくさんのご厚志をお送りいただいております。特に、年末年始にかけてキャンペーンを行いました**「チャリボン（書籍）」**と未使用・書き損じの**「ハガキ」**は、それぞれ**「4940 冊」**、**「4627 枚」**ものご寄付をいただきました。

また、企業・個人の皆様より温かいご理解をいただき、売上金の一部をご寄付いただく『寄付コラボ商品』もスタートしており、『寄付モノ』『寄付コラボ商品』共に、今後も継続してまいります。

ご協力いただきました皆様には、心より御礼申し上げます。これからもよろしくお願いいたします。

【寄付モノ】　（円）

チャリボン（書籍）	192,220
ハガキ（未使用・書き損じ）	231,350
カード類	83,130
衣類	9,786
切手類	7,752
食器類	3,234
合　計	**527,472**

【寄付コラボ商品】　（円）

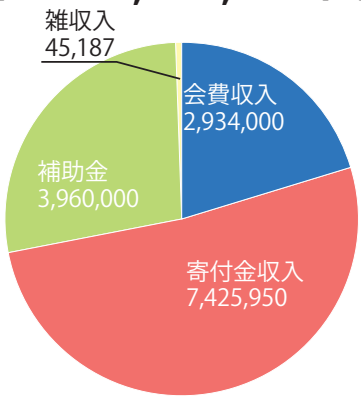
自動販売機売上より（1本につき10円） コカ・コーラセントラルジャパン（株） エフ・ヴィセントラル（株）　西武商事（株） ダイドードリンコ（株）	128,980
加藤登紀子「ほろ酔いコンサート」チケット売上より	133,500
地球博物学大図鑑（出版：東京書籍）星槎グループ内売上より	123,000
櫻井幸雄作2013年カレンダー売上より	36,000
「命がよろこぶ調理法」参加費より	29,700
大磯町グラウンド・ゴルフ協会 参加費より	25,400
星槎湘南大磯キャンパス売店　売上より（書籍、陶器類）	13,350
合　計	**489,930**

企業の皆さまへ
『寄付コラボ商品』として様々な個人、企業の皆様にご協力いただいております。もし、ご協力いただける方がいらっしゃいましたら、いつでも事務局までご連絡くださいませ。　**TEL 0463 – 71 – 6046　／　fgc@fgc.or.jp**

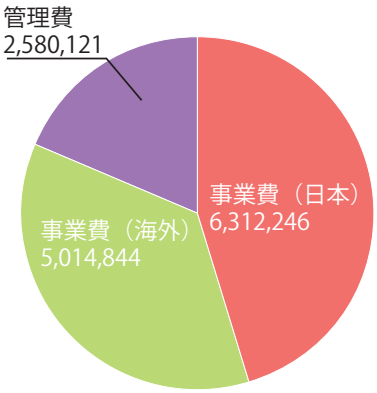
事務局より

事業活動収支中間報告（2012 年 1 月 1 日～ 2012 年 12 月 31 日）【単位：円】

収入【14,365,137 円】



支出【13,907,211 円】



※上記内訳は 2012 年事業活動収支報告書に基づき、算出されたものです。

◀ NPO カンボジア交流協会のニュースレター“クメールの風とともに”に掲載していただきました。

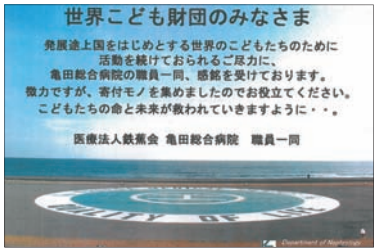
大塚製薬㈱様ありがとうございました

◀大塚製薬㈱にご寄付いただいたポカリスエットをカンボジアに寄付させていただきました。

ご協力いただいている企業・団体様（順不同）2012 月 1 月～ 12 月

- ●㈱トキコ・プランニング
- ●アマチュア無線関係者の皆さま
- ●大磯町グラウンド・ゴルフ協会
- ●国際総合健康専門学校
- ●星槎国際高等学校生徒会
- ●みらいコンサルティング㈱
- ●劇団裏長屋マンションズ
- ●プルデンシャル生命保険㈱
- ●星槎大学
- ●ジャストプロジェクト㈱
- ● NPO 劇団新制作座
- ●㈱スペースクリエーター 天使の卵基金
- ●フルサワ印刷㈱
- ●㈱バリューブックス
- ●㈱ベスタ・ネット
- ●鈴廣かまぼこ㈱
- ●ピーターパン幼稚園
- ●大磯ロータリークラブ
- ●二宮中学校サッカー部
- ●亀田総合病院
- ●ツルセミ十日市場校
- ●青葉台保育園
- ●青葉台幼稚園
- ●世界紙文化遺産支援財団　紙守　他
- ●ダイドー・ドリンコ㈱
- ●コグメド・ジャパン㈱
- ●水前寺高等学園
- ●㈱興学社
- ●星槎学園保護者会
- ●㈱湘南ベルマーレ
- ●㈱ルミネ
- ●㈲ランドマーク
- ●ティンクル上野川保育園
- ● NPO 星槎教育研究所
- ●農業生産法人　星の島
- ●銀座ロータリークラブ
- ●かるがもクリニック
- ●㈲清水肉店
- ●テルモ㈱
- ●星槎学園生徒会
- ●㈜真光寺
- ●㈻片柳学園
- ●田口教育研究所
- ●㈱横浜綜合写真
- ● NPO 打鼓音
- ●星槎中・高等学校

◆ **亀田総合病院（千葉県鴨川市）の皆さまがFGC にお手紙をお寄せくださいました。この場をお借りして、御礼申し上げます。皆様のお手紙に勇気づけられました！**



その他、個人、企業の皆様から、多大なるご協力いただいておりますがページの都合上割愛させていただきます。申し訳ございません。今後ともご協力賜れれば幸いです。

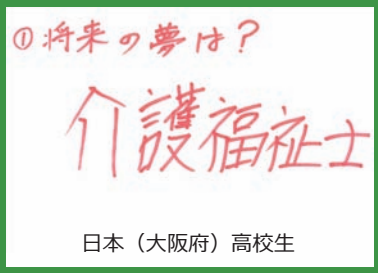
世界のこどもたちの「あのね」 vol.2

このコーナーでは世界中のこどもたちからのメッセージをお届けします。

これからの未来を担うこどもたちに「将来の夢は？」という質問をしてみました！さて、回答は…？？

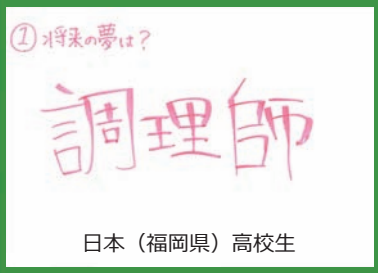
～将来の夢は？～

ブータン　学生



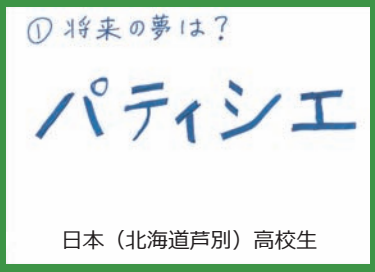
日本（大阪府）高校生

日本（福井県）高校生



日本（福岡県）高校生

日本（神奈川県 横浜市）高校生



日本（北海道芦別）高校生

協力：星槎国際高等学校全国生徒会
奥寺スポーツアカデミー留学生

みんなちがって、みんないいっ！

世界には国によって違うものがたくさんあるけど
「おかあさん」はどこにいても同じかな
こどもを想うおかあさんはどこの国も同じようです

ブータンのおかあさん編

世界のこどもたちに、将来の夢と希望を

2013 年 3 月発行

一般財団法人　世界こども財団

〒 259 – 0111

神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805 – 2（星槎グループ内）

TEL：0463 – 71 – 6046　　FAX：0463 – 60 – 3507

E-mail：fgc@fgc.or.jp

ホームページ：http://www.fgc.or.jp

Facebook：**「世界こども財団」**で検索！

この冊子は「日本郵便」の助成を受け発行しております。